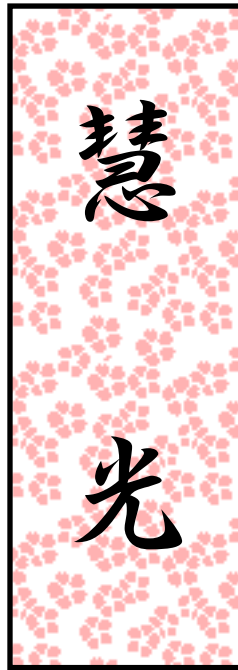




▲ 目に鮮やか 赤のピラカンサ (10月23日・菊地美智子家にて)



金光寺寺報 第210号 発行所 金光寺 宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町大字鞍岡 5927番地 0982 83-2338

今月法語カレンダーのことば

自然というはもとよりしからしむるという言葉なり

今月のことばは、『末灯鈔』(『親鸞聖人御消息』)から取り上げられたご文で、法語「自然法爾」の中の言葉です。

親鸞聖人は、私がはからうということを一 番嫌われました。往生のために善行を積んで いかねばならない、悪行の身では往生で きないであろうと思うことが一番問題であっ たということです。阿弥陀さまのはからいにおまかせしていくこと以外に、往生の道はないということです。

阿弥陀さまのはからいとは本願のことで、阿弥陀さまの本願がそうさせるということです。阿弥陀さまの本願は、私の思慮分別を当てにされず、先だつて南無阿弥陀仏と帰依させて、浄土に迎えようとお考えくださったのです。それは、阿弥陀さまの方から私を本願に遇わせるように仕向けてくださったという

ことです。私の方からはたまたまですが、阿弥陀さまの方からは遇わせるようにはたらい てくださっているのです。

「もとより」は、阿弥陀さまからの一方的なはたらきを含んだ言葉といえますし、行者のはからいに先立ってという、時間的な意味も含まれていましょう。また、「もとより」を私たちが生まれる前からと考えますと、阿弥陀さまはすでにちゃんと仕上がった浄土から、私たちを待っていてくださる、このようにも味わうことができます。

そして、「しからしむる」と続けて読んでいきますと、その心がいつそう伝わってくる ようです。自然という言葉に寄せて、他力と いうことをあらわしたといえます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏教名言ノート

心を直さぬ学問にて何の詮かある

何の詮かある

四月です。新学期が始まりました。今年もまた、新鮮な香りを漂わせた新入生が、大学の門を入って行きます。そこで、これから学問の道に入る学生さんたちに、この言葉を送りましょ う。



除夜の鐘についてのお願い 初詣の際の鐘つきはお一人一回でお願い します。ご協力をヨロシク!

11月、次の金光寺門信徒の方がご 往生なさいました。謹んでお悔やみ申 上げます。

Table with 4 columns: Date, Name, Age, and other details. Includes entries for 2018年11月11日 (満103歳) and others.

ホームページ開いています。 URL http://konkouji.jp/ 12月8日現在アクセス数 84,804人

言葉は、『聴聞集』に「あめりま。学問の目的とはいったい何でしようか。知識を吸収することでしょうか。観尊は、心を直すのが学問の目的だ とつづいていいます。」「詮」には種々の意味がありますが、ここでは、かい、知、効き目、効果な どの意味です。「詮無い」といえば、 仕方がない、無益である、という意味 ですね。観尊は、心を直さない学問は役に立 たないし、やっても仕方がない、いっ たいどんな効果があるというのだろう か、とつづいていいます。心を直すとは、心をまっすぐにし、 心を正すことだと教えています。「長い間の受験戦争で曲がった心を

まっすぐにする」 現代に観尊が生きていたら、こんな ことを言ったでしょうか。 「学びて然る後、自らを知る」と 『礼記』にはいいます。学問をして初 めて自分自身の不十分を知るのです。 善導大師の『観経疏』に「学仏大悲 心」という言葉があります。学ぶとい うのは、「み仏の大慈悲の心を学ぶ」 という意味です。 新入生のみなさん、がんばって学問 に励んでください。 (本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教名言ノート」から)

い聞何午なすの間れ遠よすた除鐘しいててい報二アうての十温での過ぐ迎 度。ご発後お、風にな慮う。と夜がたし、い本恩日コでい日は五がす頃ぎ大え師 えも十、ご情除いしな当いのう。ま一ま堂講にコンす。す。暖かい。十六日(八か感本いた。新年を たら撞一除協が夜のと苦山う鐘るテす人すにの試運転はに年外陣もちろん思 たらき時夜力亡のかそ情周報をさし。一。な時運転はに年外陣もちろん思 ぐいご鐘おなをしよなのがか、等協(除のはなるのです。に におはか撞いてくまなのかさ風苦は依発のはしるのです。に 出鐘らきししとせ発でられ間情、頼)鐘とで での始まま大ん言すはてにが除をでに期も 下音すめすい晦。をがそい変り、夜しおつ待暖 さが。は。ま日昼さ、のまえ、のま願いしか、

